

漢方薬は多様な症状に

風も軽やかに、木々の緑がもゆる頃となりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

お薬には、植物の葉、莖、根などや鉱物、動物の一部分を切る、乾燥する、蒸すなどした生薬を組み合わせたものがあります。皆さまが時に服用

される漢方薬とは、基本的にその生薬を2種類以上、組み合わせたものです。

ももとは中国から伝わり、日本人の体や気候に合わせて進化してきました。漢方薬は1剤に複数の有効成分が含まれているため、多様な症状に効くのが大きな特徴です。

例えば「葛根湯（かっこんとう）」は風邪の時に使われることが多いですが、場合によっては肩凝りが強い方の頭痛に効果があったりします。

漢方薬は体質、体力、抵抗力、症状の現れ方などの個人差を見極め、その人に合ったものが使われます。つまり同じ症状でも、自分と他の人の体質が違えば、使われる漢



障害、じんましんなど西洋薬と同じように報告があります。

また複数の漢方薬を同時に飲むと、中に含まれる生薬が重なり、思わぬ副作用が出たり、お互いに効果を打ち消すこともあります。

特に甘草や麻黄、黄芩（おうこん）を含むものは十分注意してくださいね。気になる方は医師、薬剤師にご相談ください。

緑まぶしい立夏の頃には皆さんの笑顔があふれますように。

（薬剤師 西 美香）

薬 西 美香

〔113〕

松阪地区薬剤師会

方薬も違ってきます。よく漢方薬には副作用がないと思っていらっしやる方もみえますが、そうではありません。胃もたれや血圧上昇、動悸（どうき）、肝機能